

日本キリスト教社会事業同盟

韓国の教会の社会福祉への取り組みを見学して

大韓イエス教長老会訪問、交流の



歓迎の晩餐
チョ・ソンギ PCK 総会事務総長と社事同稲松義人理事長

昨年、十一月二四日から二八日にかけて、日本キリスト教社会事業同盟(社事同)では、韓国のキリスト教社会福祉を見学させていただくために、大韓イエス教長老会(PCK)総会を訪問した。社事同では二〇〇

二年からPCKとの交流を進めており、研修と親睦のために毎年交互に訪問しているが、これは教団とPCKとの宣教協約を足がかりとして始められた。

二年からPCKとの交流を進めており、研修と親睦のために毎年交互に訪問しているが、これは教団とPCKとの宣教協約を足がかりとして始められた。

三回目となった今回の訪問は、理事長・施設長研修を兼ねて参加者を募り、社事同の理事や加盟施設の管理者など八名が参加した。

これまで強く感じたことであるが、韓国では教会(教団)の組織の中に社会事業が位置づけられている。今回訪問したPCK総会(教団)の中の事業として位置づけられている。クリスチャン人口が1%未満とされる日本とは違い、韓国では20%から30%くらいがクリスチャンだと

三回目となった今回の訪問は、理事長・施設長研修を兼ねて参加者を募り、社事同の理事や加盟施設の管理者など八名が参加した。

力強く語られた。また、それぞれの地域の中に、あるいは実践の中から必要性を感じて、毎年のように次々と新しい事業に積極的に取り組んでこられたことを知る事ができた。

しかし、積極的に地域社会に仕える取り組みは、教会が大きいから可能なのではなく、小さい教会においても同じであった。

今韓国では日本を上回る勢いで少子高齢化が進行しており、育児や高齢者福祉についての関心は高いようだった。特に介護保険については、日本のこれまでの経験を参考にしたいという期待も感じられた。

かつて北米の教会が日本各地でその地域のために種を蒔いてくださった教会と学校と社会事業は、長い間宣教協力協議会(COC)というかたちでつながりをもってきた。今年COCが解散することを受けて、昨年、教団では世界宣教部が位置づけられた。キリスト者として地域に仕えようとするとき、教団に属する諸教会、関係学校、関係社会事業の協力の必要性を強く感じた今回の韓国への旅であった。

安倍新政権のもと、教育基本法が「改正」され12月22日に公布・施行されました。1947年施行版の全文改定です。これまでの教育基本法は、戦争で多くの命を奪い諸外国に多大な損害を与えた国家の責任を反省し、日本国憲法の精神に則って「個性の尊重」「平和主義」「民主主義」の原理に基づくものでした。主権者たる国民の持つ「教育を受ける権利」に国家が仕える法であって、主権者の権利が妨げられないよう国家が縛りを受けていました。誰にも侵されることのない一人の自由な意志と尊厳を持った人間が、国家の主権者の一人として国家に参画していく姿、これに仕える国家の姿が描き出されています。戦前の「教育勅語」による「君が

2・11メッセージ

以前から公立学校で君が代日の丸の文科省による強引な押しつけがなされています。法はその後付でした。今では私立のキリスト教主義学校にまで教育委員会より強い要請があると聞きます。靖国神社に繰り返し参拝した小泉前首相。安倍首相は年頭、明

国民に与える教育からの大転換でした。しかし、国家はこの理念を大切に、浸透させ、国民を育ててきたでしょうか。この度の改定は愛国心やその他、国家に都合のよい「徳目」を教えるというのです。国家の施す教育への後戻りです。国旗国歌法

治神宮に「内閣総理大臣 安倍晋二」と記帳して参拝しました。信教の自由・思想信条の自由、政教分離の原則が徹底されなければ真の民主国家はできません。しかし、民主国家の基本理念はプロテスタント教会が多く、戦いを経て勝ち取ったキリスト教的文化価値であることを忘れてはなりません。日本は切支丹禁令が解かれてまだ150年です。自由の理念がそう簡単に根付くとは思えません。今改めて、キリスト教主義の学校や諸施設とも手を携えて、神の御前に一人一人の自由な意志と尊厳が大切にされる社会作りを、み言葉と実践による福音の種蒔きをしてゆこうではありませんか。

日本基督教団第34総会期 社会委員会
靖国・天皇制問題小委員会



大田(テジョン)地区地域児童センター連合行事見学



高尺(コチョク)教会主日礼拝参加



セナル共同体の給食支援奉仕

受けようとする人たちが長蛇の列となっていた。またある教会では、両親が働いているため放課後に居場所のない子どもたちのために学童保育のような事業をしてもらった。

どの教会でも「どうしてこのような働きをはじめたのか」と尋ねると、異口同音に「地域にニードがあるからだ」との説明を受けた。牧師が率先して取り組み、教会員や周囲の人たちがそれを助け、教会が中心になって地域のニードに応え、様々な活動が展開されている様子を見学することができた。同時に、福祉は行政が福祉施設がするものだというイメージが強い一般的な日本の教会との意識の差が感じられた。

は、直接に言葉の情報を得ることができず、外国であることも実感したが、顔からには同じ東アジアであることも強く感じ、歴史的にも文化的にも日本と非常に近い存在であることも知ることができた。社会福祉関係で海外への研修という、ソーシャルワーカーやノーマライゼーションという言葉のように「欧米か」と思いがちだが、地理的に一番近い国であり、これらの国際協力を考える上からも韓国との交流は大切なのではないかと考えた。

私自身不勉強で詳しい事情までは理解できていないが、北朝鮮や東南アジア諸国では、社会福祉の課題が山積であると思われる。世界的な視野をもってキリスト者として生きようとするとき、国境を越えて「隣人」としてアジア諸国と協力し、その地域に仕えることは、日本の教会の使命の一つではないかと思う。

稲松義人(社事同理事長) 稲松義人(社事同理事長)

"Go to the

～キリスト教医療ミッションの現場から～①

JOCS 日本キリスト教海外医療協力会



バングラデシュでの医療活動

人々の中へ行きなさい。
人々の中に住みなさい。

私が昨年四月以降訪れたJOCSの活動の一端を紹介したいと思います。まずはバングラデシュとカンボジアです。

第一に、バングラデシュ。初めて派遣されたワーカーは、吉野美重子医師（一九

七六年）です。71年の独立戦争で三〇〇万人の血が流されたイスラム教国。自然災害が日常茶飯事で、世界の最貧国の一つ。現ワーカーの宮川眞一さん（内科医）は、少数民族の住むチッタ

（ハンセン病施設も併設）に所属し、地域保健プロジェクトを担っています。バングラデシュでは日に数回起こる停電の暗闇に、手術を中断せざるを得ず、

（自家発電機が壊れたままの）国立病院では丈約1mの巨大ろうそくで手術を続ける医師・看護師は、命の危機に瀕する患者と日々向き合っています。07年一月の総選挙（延期）に際して多数の人々の命が奪われたとのニュース。「貧・病・争」が隣り合わせの国で、命の問題は「切実」な事柄です。

第二に、カンボジア。JOCSとカンボジアとの関わりは一九八九年、堀澤六郎医師・柳澤理子保健師の派遣から始まります。ゆったり流れる空気と僧侶が道



カンボジアでの活動風景

西南支区 伝道の熱意

岸 俊彦

山北宣久教団総会議長は、教団のこの四〇年を「荒野の四〇年」と振り返り、様々な誤りについて神の御前に懺悔しました。西南支区も振り返りますと、分区分時代に比べて、例えば受洗者数は四〇年前の二割にすぎません。その具体的な原因は何かについて残念ながら十分検討がなされている訳ではありません。

私たちの目の前にそうした事実を突きつけられながら、二〇〇六

教区 コラム

年度、開拓伝道によって始められた支区内二つの教会が創立五〇周年を迎えました。その内一つの教会は新しい会堂を建てることのできました。混乱や停滞の中でも着実に福音は前進しました。その二つの教会に開拓当初の話を伺うと、かつての西南支区の中で、西南分区分区の中で、西南支区四五教会が、お互いに

もつ一人の教職を加え、世代もほぼ同じ若い教職が、三人でお互いよく連絡をとりあって刺激しあいながら、伝道に励まなければと思

（東京教区西南支区長）

常設委員会等選考結果

- ★招集者、〇信徒
- 【宣教委員会】七名
- ★高橋 潤（中京）、米倉美佐男（聖和）、〇小中乃美子（永福町）、川崎善三（米子）、錦町、東島勇人（益田）、篠浦千史（さや）、知花正勝（与那原）
- 【伝道委員会】七名
- ★北 紀吉（愛宕町）、山本光一（北海教区、渡辺兵衛（青森）、竹井真人（波浮）、〇大見川昭子（大阪）、土肥聡（室戸）、具志堅 篤（読谷）
- 【教育委員会】六名
- ★岸 憲秀（千葉本町）、塚本潤一（高崎、真壁 巖（相愛、加藤 誠（静岡一番町）、〇寛 伸子（茨木東、池上信也（三瓶）
- 【社会委員会】六名
- ★張田 眞（鳥居坂、柴田彰（川谷、西之園路子（蒲原、上地 武（大正）、〇土井しのぶ（高梁、安田和人（小倉日明）
- 【世界宣教委員会】五名
- ★木下宣世（西千葉、若月健悟（国分寺、友川 栄（上星川）、伊藤瑞男（静岡、上内鏡子（神戸イエス団）
- 【教師委員会】七名
- ★松井 睦（聖徒、雲然俊美（秋田桜、田中かおる（安行、岩崎 隆（六ツ川、小宮山 剛（富山二番町、西澤他壽衛（甲東、八束潤一（米子）
- 【信仰職制委員会】七名
- ★岡本知之（西宮、〇一條英俊（札幌北光、松下恭規（芝、大村 栄（阿佐ヶ谷、藤掛順一（横浜指路、岩橋常久（南大阪、福島義人（小倉東篠崎）
- 【教師検定委員会】七名
- ★小堀康彦（富山鹿島町、田中真希子（真駒内、小峰 擁（前橋中部、倉橋康夫（富士見町、東野尚志（鎌倉雪ノ下）、伊勢富士夫（天満、白井 進（神戸栄光【予算決算委員会】七名
- ★飯塚拓也（電ヶ崎）、〇稲垣正策（函館千歳）、〇鈴木功務（秋田高陽）、〇鈴木功男（目白）、〇寺門文雄（代田、〇粉谷勝巳（甲南）、〇長島恵子（鴨島兄弟）
- 【宣教研究所委員会】七名
- ★内藤留幸（高井戸）、〇川端純二郎（仙台北、深井智朗（滝野川）、棚村重行（東京神学大学、長谷川洋介（石岡記念、越川弘英（同志社大学、相浦和生（主恵）
- 【出版局理事・監事】
- 理事九名、★小島誠志、〇鶴沼裕子、秋山 徹、小林 眞、竹前 昇、深井智朗、棟方信彦、〇望月克仁、〇勝田正佳
- 監事二名、〇刀橋晃介、〇遠藤道雄
- 【年金局理事・監事】
- 理事二名、★〇高橋 豊（西東京）、〇井上昌保（北海）、邑原宗男（奥羽）、〇遠藤道雄（東北、足田國磨（関東、古屋博規（東京、〇中林克彦（神奈川、長倉 勉（東海）、〇大杉弘（中部、〇田中義久（京都、〇江本義一（大阪、
- 【部活解放センター運営委員会・監事】
- 理事十八名、★宮田誉夫（京都）、浅居正信（北海、江戸 清（奥羽）、片岡謁也（東北）、小野團三（関東、龜岡 頭（東京、河村 博（西東京、井殿 準（神奈川）、兵藤辰也（東海、稲葉信一（中部、〇東谷 誠（大阪）、早瀬和人（兵庫、藤本 真（東中国、柴田もゆる（西中国、野村和男（四国）、多田玲一（九州）、未定（沖縄）、未定（活動委員長）
- 監事二名、〇田中義久、〇吉川大蔵
- 【会堂共済組合理事・監事】
- 理事七名、★〇岩井 要、久山庫平、〇松下充孝、〇中井 久、〇小林正樹、〇刀橋晃介、〇片桐郁夫
- 監事二名、〇石橋光明、計良祐時
- 【隔週教師を支える運動】推進委員会七名
- ★〇多田信一、〇井上昌保、〇大杉 弘、〇奥野力ネコ、〇等原康子、〇瀧川英子、〇宮澤淳子
- 【宣教協力協議会（COC）代議員】七名
- 山北宣久、小林 眞、鈴木伸治、竹前 昇、愛澤重豊、

消息

木下宣世、グドルン・シェーア



十一月十七日、逝去。九〇歳。大阪市に生まれる。一九三八年ランバス女学院神学部卒業。吹田教会、洛東教会教師を務め一九四三年休職した。遺族は甥の信さん。



十二月七日、逝去。三七歳。兵庫県に生まれる。一九九二年関西学院大学神学部卒業。二〇〇三年准允受領。遺族は父の和雄さん。

お知らせ

★HIV/AIDSからのメッセージ／時2月17日14時〜17時／所女子学院会館／講師II生島嗣氏／参加費II千円／主催II全国キリスト教学校人権教育研究協議会 関東ブロック／問合せII NCC教育部TEL FAX 03-32202-03321 訂正 4617・18号1面荒野の声欄、「水沢教会」を「土沢教会」にお詫びして訂正いたします。

牧師のパートナー

一九七五年十月、水郷の地、近江八幡教会で、当時、ヴォーリス記念病院でチャプレン、近江八幡教会担任教師をしていた夫と結婚したのが牧師のパートナーとなった出発でした。ここでは、CS教師の奉仕をさせていただく位で、新婚時代を楽しく過ごしました。約二年後、牧師の妻として初めての現場に遭わされることになりました。最初は、雪深き地・長岡教会、次は肥後の地・熊本草葉町教会、そしてエネルギーシユな地・福岡玉川教会で現在過ごしています。

主に導かれて

西八條久江
(福岡玉川教会員)

長岡教会では、若い私たちを教会の方が寛容な気持ちで受け止めてくださり、十九年近く過ごしました。子どもたちが小さい時、地域で子育て中のお母様方を誘い、教会を会場に共同保育会を開きました。子どもたちも、友だちがたくさん出来て楽しく遊びました。また、当時、新潟地区では、牧師家族会が持たれており、我が家の子どもたちは牧師の子どもの多さに励まされ、今でも楽しい思い出として残っているようです。



07年1月サザエのキャンドルを手に、礼拝堂にて

三人の子どもが長岡教会で洗礼を受けたことは、大きな喜びでした。熊本草葉町教会では、雪国の景色とは打って変わり、南国の雰囲気に慣れるのに時間がかかりました。中学、高校編入の二人の子どもが、新しい環境に慣れるのか心配でしたが、教会の方々の祈りや支えにより、中・高・大学と過ごせたことは感謝でした。

また、昨年より教会の方々のご協力をいただき、貝殻キャンドル作りを始めました。きっかけは、捨てられる物が手を加えることにより再生する喜びを感じたことです。そのことが毎日新聞の地方版に載り、現在、九州キリスト教会館の新生館に貝殻キャンドルを置いてくださっていることに感謝しています。

牧師のパートナーとなつて三二年を振り返ってみますと、『信仰で生活していくことは大変なことであること。牧師の妻の立場は、傍らで見ているのと実際になつてみるのでは、随分違う』ことを感じました。恩師の夫人方が、何気なくなさっていた仕事の底に、大変な努力と、深い思いがあったことを頭に浮かべながら思い起こしています。

私は、多くの失敗を重ね、色々な事柄に出会いましたが、夫の優しさや子どもたちの協力を励まされてきました。全てのことを通して働き、長い時間をかけて私を導き成長させてくださる神様に感謝します。今、神様が置いてくださっている所で、自分の限界を知りつつ、み言葉に聴く歩みをしていきたいと願っています。

北海教区「年度修養会」

北の大地の豊かさ～命のパッチワーク～



閉会礼拝 会場のようす

北海教区では、毎年度「年頭修養会」という大きな修養会が行われています。基本的に一月に開かれるこの集いを各地区が交替で企画することになっています。今年度は雪の多い道北地区の担当ということもあり、十一月三日、四日に新富良野プリンスホテルで「年度修養会」という名称で行われました。一九五〇年代に日本キリスト教会の集団離脱後の「年修」が北海教区にとって欠かせないものとなり、今年で五五回目を迎えました。全道から全世代が参加できるので、今回五〇〇名以上の参加申し込みがありました。教師や信徒、子どもや大人が北海教区の宣教課題の重要性を学び、交わりを深め、賜物を分かち合い、そして一人ひとりが神の民として招かれている確信を得ることができるとは「年修」です。

今回のテーマは、多様性（パッチワーク）こそが私たちの豊かさであり、私たちの命を支えているということから「北の大地の豊かさ」命のパッチワーク」となりました。メインプロ

グラムではメソナイト教会の会員で、札幌近辺の長沼町で農業を営んでいるレイモンド・エップさんと荒谷明子さんの話を聞きました。平和を願っている人々がどのように暴力的な社会構造に巻き込まれ、そしてその中で真の平和の証をするために教会として、一人のクリスチャンとして何ができるかをキリストに学びましょうという力強いメッセージでした。この間子ども年修が同時に行われ、七〇名の子どもたちが一斉にベットのボルトを振り、バタ作りをしました。

一日目の夜、「愛と平和コンサート」で盛り上がり、二日目は、七つのワークシヨップが行われ、クラフト作り、世界を知るゲーム、農民の話、憲法の映画、先住民族の歴史と文化（アイヌ、台湾）の学び、カナダ合同教会が考える合同教会の豊かさや内容的には盛りだくさん。

閉会礼拝で年修で得た豊かさを分かち合って、神と共にいることを確信することが出来ました。（ロバート・ウィットマー報）

ひととき

菅原 哲男さん

受けとめる愛



秋田県生まれ、東大宮教会員、児童養護施設「光の子どもの家」スーパーバイザー。

菅原さんが福祉の仕事に関わるきっかけとなった出来事は、学園紛争時代、ボランティア活動で訪問した婦人保護施設で起きた。施設を無断外出した女性が戻ったところを、寮母が厳しく咎めた。すると女性が逆上し、寮母に向かい自分の境遇の悲苦を訴え、ナイフを振りかざした。

この壮絶な出来事を通して、菅原さんの人生も変えられた。「自分は偉くなりたいと思って上京し、大学へ入ったが、何の生きの意味も得られなかった。」菅原さんは人生をもう一度問い直し、彷徨う中で、救済教会等の二人の牧師と出会った。その出会いから、イエス・キリストの十字架の犠牲愛、社会福祉への呼びかけを聞き、真の意味で人との関わりへの追求が始まった。

水曜日夜の祈禱会は会議や出張で牧師が不在となるときがある。そういつときはその週の担当役員が主体となつて集会を行う。必ずしも担当役員が奨励を行うのではなく、担当役員が奨励を決めるのである。いつもは牧師が奨励をしているが、教員が奨励すると、いつもより出席者が多い。奨励者を励ます意味もあり、ぜひ証を聞きたいのである。

今回はバスという人が多くなり、結局また牧師が奨励を担当するようになった。しかし、教団書記を担うようになってから、水曜日の祈禱会を留守にすることが多くなった。その

た。以来、現在に至るまで四〇年以上にわたり児童養護施設の子どもたちと関わっている。その間「光の子どもの家」を設立、施設長を務め、昨年よりスーパーバイザーとして仕えている。菅原さんは「子どもたちは親からの愛の眼差しを欲している。『光の子どもの家』は、親に代わって子どもたちの家族になり、生まれたことを後悔している子どもたちが『両親から生まれてきて良かった』と思えるまでにすることが役割である」と語る。活動の詳細は著書『誰がこの子を受けとめるか』（言叢社）に記されており、そこには十字架の犠牲愛が響いている。

牧師不在の祈禱会

のは、自分が奨励を行う前の週の祈禱会には、様子を知らずに出席するからである。従って、その頃の祈禱会の教勢は増えている。しかし、一巡して二回目となるため、教員に奨励を委ねるのである。牧師が不在の祈禱会には出席者が多くなることは前記したとおりである。とりわけ五月の教区総会開催の頃は、祈禱会の出席者が多い。牧師がいないほうが良いのかな、と愛な思い込みをしている。そうではない。出席者は牧師が教団の御用のために不在なのであり、牧師の健康と働きのために、心を合わせてお祈りしてくれているのである。

教会員の祈りに支えられて二年間の書記を担いたい。（教団総会書記 鈴木伸治）

教会員の祈りに支えられて二年間の書記を担いたい。（教団総会書記 鈴木伸治）